博報堂教育財団

教職育成奨学金制度／活動紹介

公益財団法人 博報堂教育財団

Hakuhodo Foundation

＜公益財団法人 博報堂教育財団「教職育成奨学金」制度概要＞

【制度の趣旨】

・児童教育、国語教育の教員を目指す学生を対象とした奨学金給付制度。
・児童教育を支える未来の優秀な教育指導者を育成し、子どもたちの未来に貢献する。
・全国に広がる奨学生及び奨学金受給期間を終えた修了生の輪が、教育現場での**＜学び合い、支え合いのネットワーク＞**となり、教育の質の向上や教育現場の活性化に寄与することを目指す。

【制度の特長】

①教職志望者に対象を絞った完全給付型奨学金。
②学費をほぼ全額カバーする奨学金を給付し、学業や教員となるための活動に専念できる環境を提供する。
③教育財団としてのノウハウやファシリティを活用し、特色ある研修プログラムを提供する。
④海外短期留学の支援により、海外での経験を積む機会を提供する。
⑤奨学生及び修了生の交流を促進し、全国の教育現場での**＜学び合い、支え合いのネットワーク＞**の形成を目指す。

【奨学金給付対象者】

推薦依頼大学から、以下の教員を目指す学生の推薦を受け、選考委員会による選考により採用者を決定する。
①小学校教員　②特別支援学校教員　③中学校・高等学校の国語科教員

＜2024年度推薦依頼大学（59大学）＞
愛知教育大学／愛知淑徳大学／愛媛大学／茨城大学／宇都宮大学／大分大学／大阪大谷大学
大阪教育大学／岡山大学／香川大学／鹿児島大学／鎌倉女子大学／関西大学／関西学院大学
京都教育大学／岐阜聖徳学園大学／岐阜大学／熊本大学／群馬大学／慶応義塾大学／神戸大学
國學院大學／埼玉大学／静岡大学／淑徳大学 ／上越教育大学／信州大学／玉川大学／千葉大学
筑波大学／都留文科大学／帝京大学／東京学芸大学／東北福祉大学／東洋大学／同志社大学
長崎大学／奈良教育大学／鳴門教育大学／日本大学／兵庫教育大学／広島大学／福井大学
福岡教育大学／福島大学／佛教大学／文教大学／北海道教育大学／三重大学／宮城教育大学
宮崎大学／武庫川女子大学／明治大学／明星大学／山形大学／横浜国立大学／立命館大学
和歌山大学／早稲田大学

【奨学金給付内容】

・授業料相当額
国立大学：年額60万円（月額5万円）
私立大学：年額120万円（月額10万円）
大学院生：年額60万円（月額5万円）
※大学院=大学院（修士課程）・教職大学院（大学院枠は、国立・私立ともに同額）

・自宅外生への特別支援費：年額60万円（月額5万円）

【海外短期留学支援制度】

将来、優れた教員になるための経験として役立つと思われる海外短期留学や海外研修等については、本人の申請と大学・大学院からの推薦により、当財団内で審査後、以下を給付する。

渡航費（アジア地域5万円、その他地域10万円）
留学活動費（留学期間に応じて給付）
※累計100万円までを上限に、奨学期間中は回数制限を設けずに申請可能です。
※1回の留学期間は365日を上限とします。

【大学院生への奨学金給付継続支援】

学部で奨学生であった学生が、以下の条件において大学院（修士課程）・教職大学院への進学を希望する場合は、当財団内での審査と面接を行った上で、進学後の奨学金給付継続の可否を決定する。

１）奨学生の進学先が学部と同じ大学の大学院（修士課程）・教職大学院であること。
もしくは他の「推薦依頼大学」の大学院（修士課程）・教職大学院であること。

２）進学の目的が小学校教員、特別支援学校教員、中学校・高等学校国語科教員のいずれかを目指し、より高度な学びを得るためのものであること。

＜奨学生の内訳＞

■ **2024年度新入奨学生（第7期生／96名）の内訳**（2024年8月時点）

■ **2024年度在籍奨学生（～6期生＋第7期生／268名）の内訳**（2024年8月時点）

＜奨学生が当奨学金に期待すること／2024年度新入奨学生アンケートより＞

■ ①学業に専念できる環境がつくれる　②新たな人や考えに触れる　③仲間づくり
④学費の心配がなくなる　の順で　いずれも「そう思う」が80%超

●人の繋がり

- 教員になることを目指す仲間たちと沢山交流できること。【小学校/1年/女】
- 先輩奨学生の皆さんとの交流。実際に教員として働いている方々との交流。【中・高国語/1年/女】
- 交流を通じて教員になることへのモチベーションが上がること。【中・高国語/1年/女】
- 教員になった後も支え合えるネットワークができること。【小学校/3年/女】
- 縦のつながりができること。【小学校/3年/女】
- 研修を通した定期的な奨学生とのつながり。【小学校/4年/女】

●自己研鑽の機会

- 教師を志すものとしての自分としっかりと向き合う【小学校/3年/女】
- 教職について深く知る機会を得られる。【特支/1年/女】
- 物事を多角的に考える力を身につけられることを期待しています。【小学校/3年/女】

●大学院進学の後押し

- 大学院進学の後押しとなること。【中・高国語/3年/男】
- 大学院に進学できる可能性を得ることができること。【小学校/4年/女】

●情報交換・情報収集

- 先輩奨学生の方から、教員の仕事について知ることができること。【小学校/3年/男】
- 地域による教育の違いを知ったり、学年によるとらえかたの違いを感じたりすることで、自分自身の成長に繋げたい。【小学校/1年/女】
- 教育や教員に関する情報交換や、教員として現場に出た後の交流の場として期待している。【小学校/4年/女】
- 教職を目指す大学生と交流ができるため、教員採用試験に向けた対策など、先輩方の様々な経験談を聞きたい。【小学校/3年/女】
- 大学ではやることが少ないテーマのグループワークやディスカッションを通じて年齢も住んでいる場所も違う方々の意見を知れること。【特支/1年/女】

●経済的恩恵

- 実習期間中や試験勉強中等に、お金の心配をすることなく学べる環境が整うことで、学業だけに集中することができるという点において、とても期待している。【小学校/3年/女】
- 勉強や研究にお金をかけることができる。（書籍や資料の購入など）【中・高国語/4年/女】
- 教職大学院への進学を考えているため、その学費などに充てるための奨学金を受けられること。【小学校/3年/女】
- 自宅外通学の生活費の負担が軽減されること【小学校/4年/女】

＜研修プログラム＞

【目的】

1）奨学生同士の交流促進

・「教員になる」という同じ志を持ちながらも、地域、大学、年次、校種志望の違う多様な奨学生同士での交流を促し、教育現場に出た後にも支えあえるネットワークに育てていく。

２）博報堂教育財団ならではの学びの場の提供

・大学教育とは違う視点での「学び」のきっかけづくり。
・普段接する機会が少ない「多様な分野の人の価値観」に触れることで考え方を広げ、成長のきっかけにする。

【研修の実施】

①新入奨学生研修（新入奨学生のみ／1泊2日）
②春の研修（全奨学生対象／2泊3日）

＜研修プログラム／参考＞

2023年度春の研修

【実施概要】

2024年3月1日(金)、2日(土)、3日(日)　東京有明
奨学生227名参加

【実施スケジュール】

【春の研修/講座と講師の先生の紹介資料】
・全体講座：3月2日(土)
「未来の学校／未来の教師をどう考えるか～これからの教職者に期待したいこと」

・全体ワークショップ：3月2日(土)
「LGBTQを知る～性的指向とジェンダーアイデンティティの多様性～」

・講座A：3月3日(日)
「『先生』という仕事の魅力　～子ども・保護者との信頼関係は楽しい授業づくりから～」

・講座B：3月3日(日)
「対話型授業のつくり方 ～ファシリテーションの技術と心構え～」

・講座C：3月3日(日)
「絵が苦手な方のための、伝わるラフスケッチ描き方教室」

・講座D：3月3日(日)
「就職と人生に効く！ 自分キャッチコピーを創ろう」

【研修中の奨学生の様子】

【研修後のアンケート結果】

研修参加による意識変化

■ ①視野が広まった ②モチベーションが高まった ③博報堂教育財団への親しみが強まった

④奨学生同士の交流が深まった で「そう思う」が70%超

【研修で得た成果】

●同じ志を持つ他の奨学生との交流・仲間づくり

- 同じ志を持つ仲間が増えたことである。様々な講座やワークショップ、懇親交流会などを通して、教員になるという同じ志を持つ様々な校種・学年の仲間と知り合うことができ、ネットワークが広まった。【小学校/2年/男】
- 同じ教員を目指す人たちがどのような活動をしているのかを具体的に聞き、自分が知らなかったけれど、これから挑戦していけそうな物事を知ることができたこと。【小学校/2年/女】
- 同じ意志を持つ奨学生との繋がりができたこと。語り合えたこと。【小学校/2年/その他】
- "最も大きな成果は、一緒に教員採用試験を乗り越える仲間を見つけたことです。宮崎から京都を受けるため、一緒に勉強する仲間、情報を共有できる人がいなかったのですが、同じグループに同じ自治体を受ける人がいたのでとても安心した。【小学校/3年/女】
- 全国各地の同じ志をもつ奨学生と交流し、様々な考えを聞いて、教師になる上での学びを深められたことが最も大きな成果です。講座と講座の間の休憩時間にも、教育についてや教育実習について話すことができました。連絡先を交換したため、いつでも教育について知りたいことがあれば、すぐに相談できるというのも非常に心強いです。【小学校/3年/女】
- 全国に仲間がいるという安心感と、実際に今後も連絡を取り合えるような友だちを得られたことが大きな成果でした。【小学校/3年/女】
- 仲間と真剣に教育について語り合えた時間。【小学校/4年/女】

●先輩や講師の方との交流・情報交換

- 先輩奨学生たちとの関わり。まだ1年生であるので、先輩たちの姿はとても参考になり新しい知見を得られた。【小学校/1年/男】
- 新入奨学生研修会では、交流することが出来なかった諸先輩方と、意見を交わすことによって、自分の未熟さを実感することができたことである。【小学校/2年/男】
- 教育実習を終え教員採用試験に臨む3年の方や、教職課程を終え教員になる4年の方、実際に教員として働いている方など、自分が今後目指していくべき姿の方が多くいた。その方たちと話したり、共に研修をしたりすることで、新たな考えを得たり、参考になる情報を知ることができた。【小学校/2年/男】
- 谷保先生に出会えたこと。【小学校/2年/女】
- 現職先生や講師の方々からの具体的なお話のおかげで、自分がどのような授業をしたいか、どのように子どもと関わっていくのか、ビジョンが深まった気がします。【中・高国語/3年/男】

●教師の魅力再確認とモチベーションアップ

- 4月から教員として働いていくことに対して不安が大きかったですが、現職の方のお話も聞き、頑張ろうという気持ちが大きくなりました。【特別支援/4年/女】
- 教師になるモチベーションを高めることができました。これまで教職に対して不安に思う部分も多くありましたが、今回ワークショップやOBOG・他の奨学生との交流を通じて、同じ悩みをシェアしながら、教職の魅力に再度気づくことができました。【特別支援/院1年/女】
- 大学に帰ってより一層精進し、今以上に成長して次の研修会を迎えたいと思ったことが大きな成果です。【中・高国語/4年/男】
- 四月からの教員生活に向けて最終調整というか、その決意を固め、具体的に考えを深めることができたことです。【中・高国語/4年/女】

●多様な考えに触れて視野拡大

- 異なる意見を多く吸収できたこと。教員になるにあたって、偏った考えではなく、多様な考えを持っていることが大切だと思う。【小学校/2年/女】
- グループワークでの話し合いにおいて、多様な意見にふれることをはじめ、課題に対して多角的に捉えることができるため、自分自身の中で、より多くの選択肢や、考え方の幅が広がったことである。【小学校/3年/男】
- 他の人の様々な意見を聞き、多様な視点や価値観を尊重し、良いと思ったことを自分の中にうまく取り入れていく力が必要だと実感できたこと。【小学校/3年/女】
- 多様な価値観、考え方、生き方に触れることで、向上心を更に高めることができたことです。教育に関する様々な分野について学び、多くの経験をされている方々との交流で自分を見つめ直すアップグレードさせるための重要な時間となりました。【小学校/3年/女】
- ほとんどのワークで初対面の人と様々なことを話すことができた。そこで、自分の視野を広げることができた。【小学校/3年/女】
- 教育に対して、広い視野で考えることができた【小学校/4年/女】
- 多くの奨学生との関わりや講座での学びを通して新たな視点から多くのことを考える機会となり、良い刺激をたくさん受けられたこと。【小学校/4年/女】
- 自分の「当たり前」を見直すきっかけになった【小学校/院2年/女】

●理想の教師像・授業の再確認と自身の進化

- 自分の目指す教師像や授業像、研究テーマに対する詰めの甘さを実感したこと。【小学校/1年/女】
- 大学生活、そしてこれからの人生の行動指針を得ることができました。人生の経験ひとつひとつが教員としての魅力に繋がってくると感じたので、今後はもっと積極的に人と関わり、いろいろなことを学んでいきたいと思うようになりました。【小学校/2年/女】
- 教員となるモチベーションと、そのために経験・努力するべきこと、教員生活の見通しが以前より明確になったことです。【小学校/2年/女】
- 研修を受け、「時代の変化に柔軟に対応できる教師」を目指していきたいと変化があったことが最大の成果だと思う。【小学校/3年/男】
- 授業をどう作るか、児童生徒との関係作り、自分は教育界にどう役に立てるかを考え、1年後、現場に出た時、そしてその先、どんな教師でありたいかを考えることができた。【小学校/3年/女】
- 自分のなりたい教員像の他に目指すべき教員像が増えたこと。こうしたい、こうなりたい、ではなく、こうならなければならないという視点が増えたことは大きかった。【小学校/3年/女】
- 子どもたちとの関わり方で、これから特に気をつけたいと思うことを学ぶことができたのが、大きな成果だと思う。【小学校/院1年/女】

ブロック別近況報告会

近況報告会は、地域での情報共有や助け合い、この先も続くつながりが出来ることを目的として実施しています。
2023年度は、東京2会場、名古屋会場、大阪会場、岡山会場、福岡会場の6つ会場に分かれて近況報告会を行いました。

【名古屋会場】
・対象ブロック：中部ブロック、甲信越ブロック（一部）
・実施日：2023年10月29日（日）
・参加者：現役奨学生__33名　修了生__6名
・内容：現職教員の登壇（小学校・中高国語・特別支援）、大学院生の登壇、奨学生幹事による交流企画

【福岡会場】
・対象ブロック：九州ブロック
・実施日：2023年11月5日（日）
・参加者：現役奨学生__26名　修了生__5名
・内容：現職教員の登壇（小学校・中高国語・特別支援）　、大学院生の登壇、奨学生幹事による交流企画

【大阪会場】
・対象ブロック：大阪・兵庫ブロック、京都・奈良・和歌山ブロック
・実施日：2023年11月12日（日）
・参加者：現役奨学生__44名　修了生__7名
・内容：現職教員の登壇（小学校・中高国語・特別支援）　、大学院生の登壇、奨学生幹事による交流企画

【岡山会場】
・対象ブロック：中国・四国ブロック
・実施日：2023年11月26日（日）
・参加者：現役奨学生__21名　修了生__4名
・内容：現職教員の登壇（小学校・中高国語）、大学院生の登壇、奨学生幹事による交流企画

【東京会場①】
・対象ブロック：北海道・東北ブロック、新宿ブロック
・実施日：2023年12月3日（日）
・参加者：現役奨学生__44名　修了生__9名
・内容：現職教員の登壇（小学校・中高国語・特別支援）　、大学院生の登壇、奨学生幹事による交流企画

【東京会場②】
・対象ブロック：品川・渋谷ブロック、甲信越ブロック（一部）
・実施日：2023年12月3日（日）
・参加者：現役奨学生__50名　修了生__10名
・内容：現職教員の登壇（小学校・中高国語・特別支援）　、大学院生の登壇、奨学生幹事による交流企画

＜海外短期留学支援制度＞

【目的】

将来優れた教員になるために役立つと思われる海外短期留学や、海外研修の参加等により、奨学生自身が目指す教員像や実現したい学びにつながる経験を得られるよう支援します。

【当支援制度を活用した留学実績】 76件（2024年9月時点）

平均留学期間：58日、平均支給額：約197,371円
※コロナ禍の渡航制限により、2020年～2022年の利用者はほぼ無い状況でした。

【これまでの留学先・期間】

■留学先

■留学期間

＜奨学生WEBマガジン＞

【目的】

奨学生及び修了生の交流促進の一環として、奨学生及び修了生の活動や近況を紹介するWEBマガジンを、奨学生、修了生、大学担当者様へ配信します。

【2022年度に配信したWEBマガジンの内容】

・「近況報告会」登壇者への質問
・教育実習体験レポート
・新入奨学生紹介
・「ありのままの子ども」裏側紹介
・「対話型授業のつくり方」講座実施レポート
・近況報告会「大阪会場」レポート
・近況報告会「東京会場」レポート
・近況報告会「名古屋会場」レポート
・近況報告会「福岡会場」レポート
・近況報告会 幹事アンケート
・卒業生のことば

【2023年度に配信したWEBマガジンの内容】

・OBOG INTERVIEW BOOK 2023
・「OBOG春の集い」開催レポート
・浅草フィールドワークレポート
・マレーシア留学体験記
・新入奨学生紹介
・ブロック別座談会「中国・四国ブロック編」
・ブロック別座談会「北海道・東北ブロック編」
・ブロック別座談会「中部ブロック編」
・ブロック別座談会「九州ブロック編」
・卒業生のことば

【2024年度に配信中のWEBマガジンの内容】

・OBOG INTERVIEW BOOK 2024
・OBOG近況レポート vol.1
・海外短期留学レポート/語学留学編
・OBOG近況レポート vol.2
・OBOG近況レポート特別企画
「特別支援教員座談会」(交流編)第1グループ
・OBOG近況レポート特別企画
「特別支援教員座談会」(交流編)第2グループ
・OBOG近況レポート vol.3
・OBOG近況レポート vol.4
・新入奨学生紹介

＜当財団他事業への参加（希望者のみ）＞

【目的】

「博報賞」「児童教育実践についての研究助成」等、当財団の他事業への催しに参加し、優れた教育実践者や研究者の知見に触れ、交流を図る機会を提供します。

【奨学生の参加例】

・「教育フォーラム」への参加

・「日本語交流プログラム」のコミュニケーションサポーター参加

・「児童教育実践についての研究助成」成果発表会・交流会への参加

・博報賞を受賞した、先進的な取組みを行う小学校の取材（横浜市立白幡小学校）

【他事業プログラム参加時の奨学生の様子／参考】

■「日本語交流プログラム」のコミュニケーションサポーターとして参加

実施日：2024年5月13日(月)　浅草

海外の中学生と「日本語」で交流する『日本語交流プログラム』の一環として、海外校の生徒が参加する浅草フィールドワークに奨学生13名が参加しました。